

「インドネシア大学スプリングスクール参加報告書」

京都大学経済学部4年 平山明秀

- ① 今回のインドネシアでの研修を通して確実に自分の世界を見る視野が広がったと思う。まずインドネシア語への理解が確実に深まった。このことによってインドネシアという国がより身近な国となり、自然とインドネシアの文化、宗教などの問題についての学習意欲が高まった。またプレゼンテーションでも大きな学びを得ることが出来た。自分の班は宗教・人種をテーマにし日本国内での「ヘイトスピーチ」を取り上げたのだが、インドネシア大学の先生から非常な好評を得ることができた。先生からインドネシア国内での宗教差別などの事例を学び、日本国内の状況とそれを比較し、コメントをいただくという過程で自分の視野は広がり、学習意欲は大きく向上した。今回のプログラムを足掛かりとして今後もインドネシア語やムスリムの文化などについて継続して学んでいきたい。
- ② インドネシアでは多くの現地の食べ物に接し、食文化の違いを垣間見ることができた。また気候の違いがキャンパスの様子からもはっきりと伺えた。週末の研修ではタマンミニという場所でインドネシア国内の多くの部族の文化について知ることができ、またワヤンやアジア通貨危機時のインドネシア銀行の状況などを学べた。宗教に関しては現地の学生がモスクや教会でお祈りをしている姿を頻繁に目にし、宗教に対する意識の違いを目の当たりにすることができた。さらにオランウータンなどの動物を触れ合う機会もあり、改めて京大の霊長類研究所への関心が高まった。
- ③ 平日の午前中はインドネシア語の学習をした。あいさつから始まり、簡単な対話、数字の教え方などを反復して学ぶことができ、身につけることができた。午後からは統語論やマルクス経済学、日本近現代史、インドネシアの楽器や、インドネシア国内の宗教、政治などの現況について詳しく学べた。週末のツアーではインドネシア国内の多様な民族、宗教、歴史について学べた。
- ④ 今後、記者として働く予定の自分にとって今回の研修は非常に大きな影響を与えた。まずインドネシア語を初歩ながら学べたことでインドネシアへの親近感が増した。さらに多くの友人、日本に詳しい先生と知り合えたため将来インドネシアで仕事をしたいという思いが強くなった。特に日本文化、政治に詳しい先生と知り合えたことは大きな収穫であった。自分が関心のある問題について今後も多くの知見を与えてくださるであろう。今回の研修は進路選択に不安を抱えていた自分の背中を押してくれ、多くのすばらしい友人との出会いもあり精神的に前向きにしてくれた。また今まで東アジアに関心が高かった自分にとって自らの視野をASEAN 地域に拡大してくれた点で自分の今後の仕事に大変意義深い、大きな影響を与えてくれた。